

茄子を見せてとりたる熊は、膽かならず小なりとぞ。中略高橋文亮話

〔梅園日記〕四 夢茄子

一富士、二鷹、三茄子とて、これらを夢に見るを吉徴とす、その子細をしらず、笈埃隨筆に、或人いふ、この三事、夢の判にあらず、皆駿州の名産の次第をいふ事なり、富士はさらなり、二鷹は富士より出る鷹は、唐種にて良なり、こまかへりと云、三茄子は此國第一に早く出す所の名産なりとみえたり、しかるに唐土にては、茄子を夢に見る事を忌なり、宋の樓鑰が玫瑰集七十に、劉允叔夢茄子、而作舍萌題、其後して云、退之送窮而延上坐、子厚乞巧而甘抱拙、若允叔之舍萌、則真驅之、雖未能絕紫瓜之生、畏君之詞、自爾當不復敢入吾夢矣、然此種一名不落、彼夢滿甌三顆、不妨甲科釋褐者、殆以此又似不必力驅之也、爲書其後、以壯昆季西上之氣。舍萌は周禮占夢に、舍萌于四方、以贈惡夢、注に也、釋文に、萌、芒也、耕反とあり、西湖遊覽志餘二十二、委巷叢談紹興二年、兩浙進士類試於臨安、湖州談誼謁上天竺觀音、祈夢、夢人以二椀貯六茄爲餽、惡之、蓋杭人以茄爲落蘇、而應試者、以落蘇爲下第也、

〔甲子夜話〕五 樂翁ノ話ラレシハ、世ニ一富士二鷹三茄子ト謂コトアリ、此起リハ神君駿城ニ御坐アリシトキ、初茄子ノ價貴クシテ、數錢ヲ以テ買得ルユエ、其價ノ高キヲ云ハン、逆マヅ一ニ高キハ富士山ナリ、ソノ次ハ足高山ナリ、其次ハ初茄子ナリト云シコトナリ、彼土俗ハ足高山ヲタカトノミ略語ニ云ユエナルヲ、今ニテハ鷹ト訛リ、其末ハ三物ハ目出度モノヲヨセタルナド心得、畫ニカキ掛テ翫ブニ至ルハ、餘リナルコトナリ、

〔嬉遊笑覽〕十上 初ものを賞すること、昔も今もかはる事なし、唯賞するものときもなき物と有り、茄子は昔はめでたる物なり、懷子集、庄屋さへやく田樂を食かねてと云句に、意初茄子とて守護にとらる、寛永發句帳に、和初なりや先是式のさ、げ物、此句瓜、茄子の句中にあり、永代藏貞享五年東寺邊りの里人、茄子の初生を目籠に入れて賣來るを、七十五日の齡、これ樂みの一つは二文二つ